

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

# エコシティ志木通信

3月1日号 (No. 65・待ち遠しいのは…号)

2012  
\*  
3月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：山崎光久



勝手にレッドデータ of 志木 (51)

## ヒバリ

子供の頃、ヒバリは巣から離れたところに降りるので、空から降りるのを見たからといってもそこに巣はないと聞いていました。

早春の田んぼや草原の上空には、にぎやかに囀るヒバリの声が聞こえます。そんなヒバリですが、最近数が減っていると聞きました。

ヒバリは麦畑や草丈の低い草原を好みますが、そのような場所が減っているのです。ヒバリをシンボルとしている自治体は多く、埼玉県では所沢市、熊谷市、入間市、川島町、吉見町、三芳町など、6市町です。福島県や山口県では準絶滅危惧種に指定されています。ちなみに志木市は市の鳥の指定はありません。

上空で囀るヒバリの声は時にうるさいと思うこともありますが、早春の音色を大切にしていきたいものです。

(山崎光久)

1/8  
(日)

## 県内一斉ガンカモ調査

主催：財団法人埼玉県生態系保護協会



毎年恒例の埼玉県生態系保護協会主催「県内一斉ガンカモ調査」が行われ、参加した同協会志木支部に調査協力をしました。

当日の気温は4℃で、空気は冷たかったものの快晴で良い調査日になりました。志木大橋から市役所の先の新河岸川との合流地点まで約2kmを参加者13名で歩いてカモの種類と数を数えました。

県内全体のカモは、18種32,906羽で、昨年16種33,147羽からは、2種類増、241羽減でした。去年は関東近辺ではカモが例年に比べ著しく少な

かったのですが、今年も去年とほぼ同じ数ということは少なかったこととなります。カモ以外のツグミなどの冬鳥も少ないのですが、原因ははっきりしません。

柳瀬川では、カモは5種212羽で、昨年より種類は1種類増えましたが、数は50羽減少しました。

内訳は次のとおりです。( )は昨年

ヒドリガモ	91羽 (92羽)
オナガガモ	3羽 (36羽)
コガモ	77羽 (92羽)
カルガモ	39羽 (42羽)
マガモ	2羽 (0羽)

調査を始めてから2番目に少なかったですが、昨年暮から年度末に掛けて、柳瀬川では各種の河川や橋梁工事が行われており、カモの数が少ないのもその影響もあると思われます。すべての工事が完了して、来年のガンカモ調査ではカモが増えてくれれば良いのですが・・・

(山崎光久)

2/12  
(日)

こどもとおとなの自然塾(4)

## 冬の渡り鳥を見てみよう

北風の冷たい日でしたが、快晴で空は青く、いい観察日和となりました。この会を後援していただいている志木市立教育サポートセンター所長の前田さんより、ご挨拶をいただき、川に向かいました。

コースはサミット裏から市役所近くまでの柳瀬川。春には花見客でにぎわう美しい桜の名所です。

サミット裏では、オナガガモ、ヒドリガモ、コガモ、カルガモ、そしてハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、タヒバリ、更にはイソシギ、イカルチドリ等を観察する事ができ楽しいスタートとなりました。

富士見橋から河川工事部分を過ぎたあたりでは、カワラヒワ、ツグミ、シジュウカラ等と出会い、高橋を過ぎたあたりではダイサギ、コサギが堤防で日向ぼっこ、潜水名人の可愛いカイツブ

りも見ることができました。

(財)埼玉県生態系保護協会志木支部長の山崎さんによる、観察できた野鳥の説明の後、NPO法人エコシティ志木代表の天田さんから、柳瀬川流域に関する話を聞き、解散となりました。

この日は、20種類を超える野鳥を観察することができ、楽しい会となりました。(青木明雄)



# 2011年 柳瀬川ウォッチング(野鳥調査)の記録

2011年は12回の調査で49種類の野鳥を確認しました。

カモ類では、カルガモが363羽、コガモ295羽。冬期にノスリ、夏期にアマサギを観察できました。(毛利)

## ●調査方法

- 1) 毎月第3日曜日、午前9時～12時に実施(悪天候の場合は中止)
- 2) 一定の速度で歩きながら半径50mの範囲を目安に出現した野鳥の種名と数を記録。
- 3) コース  
志木中学校前 → 高橋 → 栄橋 → 旧柳瀬川 → 高橋 → 柳瀬川旧堤防  
→ 水谷田んぼ → 富士見橋 → 志木中学校前

※ 本調査は 1997年6月より行っています。

\* 主催=NPO法人エコシティ志木 / (財) 埼玉県生態系保護協会志木支部

\* 記録=山崎光久

鳥名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 カイツブリ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 カワウ	1	2	5	2	4	4	3	0	3	3	6	3
3 アオサギ	1	2	2	0	1	2	0	4	4	5	9	4
4 ダイサギ	1	0	0	0	0	0	1	3	1	6	1	1
5 チウサギ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
6 アマサギ	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0
7 コサギ	2	3	5	3	0	1	1	4	2	1	4	4
8 ゴイサギ	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0
9 マガモ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10 カルガモ	32	23	16	13	18	49	21	26	41	58	42	24
11 コガモ	73	69	32	26	14	0	0	0	3	20	39	19
12 ヒドリガモ	24	18	33	2	0	0	0	0	0	0	24	58
13 オナガガモ	9	13	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2
14 ノスリ	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15 チョウゲンボウ	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16 キジ	0	0	1	1	2	1	2	0	0	2	1	0
17 コチドリ	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
18 イカルチドリ	17	1	4	2	0	3	4	3	37	0	8	14
19 イソシギ	4	7	2	3	2	0	0	2	4	7	5	8
20 タシギ	3	0	0	2	0	0	0	0	0	1	7	4
21 セグロカモメ	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22 ユリカモメ	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23 キジバト	16	87	26	17	10	10	9	4	2	10	1	8
24 カワセミ	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0
25 ヒバリ	5	0	6	4	3	0	1	1	0	0	3	2
26 ツバメ	0	0	0	9	16	7	24	15	1	0	0	0
27 キセキレイ	3	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
28 ハクセキレイ	27	12	9	5	5	6	1	1	6	5	14	15
29 セグロセキレイ	3	4	1	0	0	0	0	0	1	5	4	7
30 タヒバリ	7	14	4	0	0	0	0	0	0	0	5	15
31 ヒヨドリ	12	8	9	21	0	4	0	0	2	5	8	18
32 モズ	1	4	2	0	0	0	0	4	3	3	1	1
33 ジョウビタキ	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
34 ツグミ	24	75	22	20	0	0	0	0	0	0	0	0
35 ウグイス	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
36 オオヨシキリ	0	0	0	0	12	10	7	0	0	0	0	0
37 セッカ	0	0	1	0	0	3	2	2	3	0	1	0
38 シジュウカラ	0	0	1	0	1	3	0	0	3	0	4	2
39 エナガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
40 メジロ	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
41 ホオジロ	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4
42 カシラダカ	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
43 アオジ	0	7	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
44 カワラヒワ	118	119	29	1	12	1	4	0	6	7	3	5
45 スズメ	127	506	88	39	44	23	51	53	66	57	100	37
46 ムクドリ	69	98	62	44	27	19	7	18	0	15	1	0
47 オナガ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
48 ハシボソガラス	0	2	0	0	2	5	0	0	0	1	2	0
49 ハシブトガラス	9	4	1	4	10	7	5	1	1	5	2	8
ドバト	2	0	0	0	0	8	8	0	2	3	0	0
アヒルの仲間	0	4	4	3	0	3	0	0	0	0	0	0

## 新河岸川・柳瀬川の河川工事について

河川の工事は水量の減る冬季に行われることが多いのですが、この冬は市内の新河岸川と柳瀬川で5か所もの工事が行われています。

### ●新河岸川水辺再生工事

埼玉県が県内各地で実施してきた水辺再生100プラン事業の一つとして、いろは橋下流の新河岸川・柳瀬川合流点付近を中心に行われている工事で、昨年度の左岸（宗岡）側に対し、今年度は右岸（本町）側と、合流点の中州（村山快哉堂裏）で工事中です。3月25日には県内100か所の合同竣工式が志木で開催されます。



新河岸川右岸の水辺再生工事

### ●橋梁耐震化工事

柳瀬川の栄橋では埼玉県が、志木大橋では志木市が、東上線橋梁では東武鉄道がそれぞれ耐震化工事を実施しています。

橋脚の周囲に鉄筋を組みコンクリートで一体化、橋脚下部を掘り下げ基礎の補強、橋桁が落ちないように落橋防止装置の取り付け等の工事です。東上線の上り線の煉瓦製の橋脚は大正3（1914）年に東上鉄道が開通した時に築造された歴史あるものですが、今回の工事で煉瓦の姿が見えなくなってしまいます。



東上線橋梁耐震化工事

### ●柳瀬川の浚渫工事

柳瀬川は武蔵野台地に谷間を穿つ形で流れており、河床は武蔵野台地の基盤をなす砂礫（砂利）によって形成されています。この砂礫は大雨が降るたびに下流へと流されますが、川の勾配は志木に入ると急に緩くなるため、流れてきた砂礫は志木では溜まる一方になります。埼玉県では2年前から浚渫工事を続けていて、前2回のニュータウン方面に続いて、今年は富士見橋の下流から志木中学校の手前までで実施しています。

この付近は緩やかに左へ蛇行していて、蛇行の内側（富士見側）の岸はコンクリート護岸の上に大幅に土砂がたまり、水際に草が生えた自然な環境となり、小魚の隠れ場所になっていました。

今回の工事で土砂を取り除いてしまうと、この自然な水際が失われ、40年ほど前のコンクリートブロック貼りの護岸に戻ってしまいます。

現在の河川工事は自然の要素を活かした『多自然川づくり』の考えを取り入れて行われるようになってきました。工事を実施している埼玉県では、早急な自然回復をめざして、水流で削られる心配の無い蛇行の内側については、土砂の撤去と合わせてブロックも撤去し、草が生えやすいような土砂による水際とする工事を行っています。

（天田眞）

1月21日に「新河岸川流域フォーラム」が開かれました。このフォーラムは、総合治水対策を含めた健全な水循環形成の意義・重要性等について広くPRするとともに、川づくり活動への参加、行政と市民、市民団体間と連携を深めることを目的に開催されています。流域自治体で構成する新河岸川流域治水対策協議会と流域市民団体が構成する新河岸川流域川づくり連絡会が合同で毎年開催しています。

新河岸川と荒川が合流する地域は、志木市などその上流部も含めて古くからの洪水多発地帯で、そのため多くの治水事業が行われ、現在も東京北部の防災上の重要地域になっています。その反面、こうした立地に由来する生活文化や構造物・施設が数多く残された貴重な土地でもあります。

この日は、水塚の文化研究会メンバーなど当会会員も参加しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、予定通り、午前中は、土嚢作り体験と巡視船「あらかわ」による荒川を遊覧しての岩淵水門などの見学が行われました。水上からは新旧の岩淵水門の配置や、荒川（旧荒川放水路）と新河岸川＝隅田川との位置関係がよくわかりました。



写真：青木明雄

通常は荒川の水の3割が隅田川に流入しているそうですが、水量に合わせてこの岩淵水門を調整して下流域の洪水を防ぐ仕組みになっています。

午後からは「今、迫り来る大災害の危機」と題するえどがわ環境財団理事長・土屋信行氏の講演や参加各団体による「水に関わる災害に向けた取り組みについて」の意見発表とパネルディスカッションが行われ、新河岸川水系水循環連絡会の菅谷会長は志木市の地域特性や取り組み状況を事例にして発表を行いました。（筑井信明）

2月4日(土)さいたま市民会館で埼玉県土整備部水辺再生課主催の「川の再生交流会～みんなで作ろう川の国埼玉～」が開催されました。

はじめに上田知事の挨拶があり、「埼玉県の川の面積は県面積の約3.9%を占め、県面積の9%を占める道路のほぼ半分に相当すること、また吉見と鴻巣間の荒川の川幅は2,537メートルあり、日本一である」との話がありました。

さらに「この3年間は川の再生100プランを実施してきたが、来年度からは一定の流域を上流から下流まで全部行い、どこの川でもアユが捕れ、食べられること」を目標としたいとのことでした。午前中は第4回川の国埼玉フォトコンテストの入賞者や水辺のサポーター18団体の表彰があり、その後活動事例発表がありました。鴻巣市立下忍小学校の4年生による「元荒川で遊び、そして学



ぼう～ふるさとの川をもっと身近に感じるために～」の発表は、子ども達が総合学習をとおして、川や生き物にかかわる変化が見られて興味深いものでした。

午後は ①川の生き物・生態系 ②川の清掃・環境保全など6つの分科会に分かれて、発表や意見交換が行われ、最後に全体会を行って盛会の内に終了しました。（山崎光久）

# 志木における水防意識の提案

NPO法人エコシテイ志木事務局長 伊藤智明



▲柳瀬川のカミソリ堤防

高橋下流から栄橋まで左岸側に設置されている。川の中が見えないので、水位変化が分からず危険。

現在、巨大台風・ゲリラ豪雨・地震津波・内水氾濫※等、これまでの対策ではどうにもならない水害が起こる時代になっています。そこで、今年1月初旬に新河岸川流域の皆さんとともに、水害やその対策の歴史文化が数多く残る志木市をフィールドとして、水防意識に関するワークショップを実施しました。このワークショップで出された意見をもとに、「志木における水防意識の提案」をしたいと思います。

※内水氾濫＝大雨で街中の低い場所（地下空間も含む）に水が溜まってしまうこと。水辺から離れたところでも起きるので、普段から地形を意識していないと危険。現在の異常気象や都市環境の状況下においては、内水ハザードマップの作成が急務であるが、現在のところほとんどの自治体で作成がされていない。

## ■事前の予防

### ▽住む場所を選ぶ時

- ・地元の人に水害が起きやすい場所や起きた時の話などを聞く。
- ・ハザードマップ（洪水・内水・地盤など）や地域防災計画、地域の歴史（災害の記録）、古地図（昔の道、川、水路、池、沼）などを調べ、実際に水が溜まりやすい場所を歩き、地形を体感する。
- ・川は洪水を起こすたびに台地を削っているため、台地から台地までが川幅と考える。

### ▽住んでいる時

- ・普段から水が溜まりやすい場所や町中の「冠水時注意」の看板を見つけておく。
- ・避難所の場所や避難経路を確認しておく。
- ・備蓄倉庫の場所やその中身（避難用ボートなど）を確認しておく。
- ・どのような災害情報がどのような方法で入手できるかを確認しておく。
- ・土のうの作り方など、防災訓練に参加する。
- ・日頃からの地域のゴミ拾いや水路の清掃をする。また、浄化槽を設置している家は、年1回の法定定期検査を必ず受ける。（雨水を排水のする時に詰まって溢れるので）
- ・非常持出品は、定期的の中身を確認し、非常食は消費期限を確認しながら定期的に入れ替える。（懐中電灯と電池、携帯ラジオと電池、携帯電話、医療品、現金・貴重品、衣類・下着類、避難マップ、非常食（3日分）と皿・フォークなど）

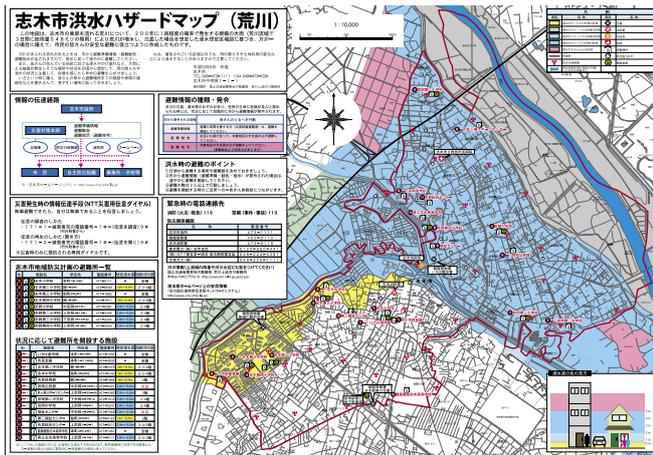
## ■事後の対応

### ▽大雨が降っている時

- ・低い場所や地下空間には居ないようにする。（水が真っ先に流れ込んでくるため）
- ・水位を確認しに川などへ行くのは危険。（様子を見にとあえて危険な場所へ行く人も多い）
- ・避難するタイミングを決めておく。（周りの人



▲柳瀬川駅近くのアンダーパス  
東武東上線の下を通るため、道路が緩やかな坂道になっているため、内水氾濫の危険がある。



▲志木市洪水ハザードマップ

に合せず、率先して自主避難を。余裕を持って避難しておけば、被災しても・被災しなくても、避難して良かったと思うもの。集団の手抜き。多数派同調性バイアス、正常性バイアス、アクション・トリップ※に注意)

※**集団の手抜き**= 集団でいるときに、自分が100%の力を出さなくてもいいような気持ちになること。(例: 他の誰かがやってくれるとみんなが思う)

※**多数派同調性バイアス**= 多数の意見が正しいと思ひ込むこと。(例: 周りの人に合わせる)

正常性バイアス= 思い込みによって頭が非常事態であるという認識に切り替わらない状態のこと。(例: 非常事態にも関わらず逃げない)

※**アクション・トリップ**= 極度の緊張状態により、頭の中では正しい方法がわかっていて、習慣的になっている行動をうっかりミスすること。外的要因による混乱状態でも生じる。(例: 自宅の中を迷う)

### ▽避難する時

- ・ 棒を突きながら歩く。(水が濁って足元が見え

ないので、フタが無くなったマンホールやU字溝や、段差に注意しなければならないので)

- ・ 靴を履いて歩く。(長靴やサンダル、裸足は危険なので)
- ・ 河川や水路の近く、地下道など、危険な場所を越えずに避難できるようにする。
- ・ ガス元栓や電気ブレーカーを必ず止める。
- ・ 雨カップやリュックサックなど両手が使える動きやすい服装で、2人以上で行動するよう心がける。(大雨や強風時に傘を差しての移動は危険。)
- ・ 車では避難しない(水が来た時、ドアが開かず、閉じ込められることがある)
- ・ 切れた電線など、危ないところに近寄らない。
- ・ 水が歩ける高さを超えたら避難せず、高い場所で救助を待つ。(ひざ上あたりが目安)

### ■水が引いた時

- ・ NPO 法人レスキューストックヤード「水害ボランティア作業マニュアル」に詳しい。

<http://www.rsy-nagoya.com/rsy/common/pdf/suigai-manual.pdf>

### ■その他・提案事項

- ・ 宗岡浄水場にある堤防や洪水の高さが分かる標識は、各学校や駅前、電信柱など、もっと目立つ場所にも設置した方がよい。

- ・ カミソリ堤防(柳瀬川の高橋下流)は、川の横にいながら川の様子(水位)が分からないので危険。(東日本大震災の津波で、カミソリ堤防の脇にいて被害を受けた人もいた。)

- ・ 複合的な自然災害(地震+洪水など)も考慮したハザードマップが必要。(堤防が地震で壊れた後に洪水が来た場合など)

- ・ 線路や道路のアンダーパス(地下道)にある冠水注意の看板は、直前ではなく、道を変更することができる交差点などに設置しないと危険。

- ・ 避難所等については、現在の洪水ハザードマップ等には自治体内の情報しか載っていないが、安全性を考えて自治体の境界を越えたところでも載せた方がよい。(新河岸川と柳瀬川に挟まれた地域は、市内の避難所へ行こうとすると川を越えなければならないので、富士見市側の学校(水谷東小学校・水谷中学校)や台地(水子地域)に避難した方がよいため。)

### 【参考資料】

志木市「洪水ハザードマップ」  
朝霞市ホームページ トップ> 市民便利ガイド> 防災> 洪水  
『人は皆「自分だけは死なない」と思っている 防災オンチの日本人』山村武彦  
NPO 法人レスキューストックヤード「水害ボランティア作業マニュアル」

# 金子秀樹の 農業日記

< 13 >

今年の冬は、寒いですね。

この寒さと乾燥は、我家の冬野菜の生育を遅らせています。特にブロッコリーの生育が遅れ、例年ですと年初めから食べ始め、2月に入ると毎日ブロッコリーが食卓に乗るのですが、今年は、まだ数回しか食べていません。(毎日出てくると、少し嫌のなる事もあります。出てくる量も多いので)

ブロッコリーですが店頭販売されているのは、ブロッコリーの苗の中心部で、中心部を切り取ると脇芽が次から次と出てくるので約1ヶ月程度食べられます。3月に入り気温が高くなると、今度は、ブロッコリーの花が咲き始めます。

我家でブロッコリーを作り始めて10数年になりますが、このような年は、初めてです。今年は、ブロッコリーをほとんど食べる事が出来ない年になるかもしれません。

さて、今年の稲作作業ですが、第一弾として、1月28日に野焼きが行われました。私達のブロックでは、約30名程度が集まりました。荒川の河川敷全体では、60～70名程度と思われます。

野焼き作業は、各自が灯油バーナー等の用具を用い行いましたが、今年は、4日前に降った雪の影響で炎が思いの外燃え広がらず、作業時間も長く、また燃え残りの多い野焼きとなりました。

今年は、延焼対策のため、待機していた消防自動車も手持ち無沙汰だったかもしれません。この後は、元肥の散布、水路の掃除、くろ付け等の作業が続きます。

ここで、耕作時、トラクターに寄ってくる鳥の写りが取れましたので添付します。見えづらいですがトラクターの車輪横約20cm程度にセキレイがいます。

ときには、もっと近づいてくることもあります。これから田植まで3回程度耕作しますが、その時、どんな鳥が寄ってくるのか楽しみです。



野焼き作業中



野焼き後(燃え残り多い)



畑の雪の冬景色



成長遅れのブロッコリー



トラクター横のセキレイ

《鳥類》

アオサギ (1) → 2011年12月7日 (水) 柳瀬川で [青木明雄]

カワセミ (1) → 2011年12月27日 (火) 柳瀬川の富士見側で [青木明雄]

チョウゲンボウ (1) → 1月8日 (日) 柳瀬川・志木大橋上空 [県内一斉ガンカモ調査]

ヒメアマツバメ (2) → 1月8日 (日) 柳瀬川最下流部の栄橋上流で。当会初記録 [県内一斉ガンカモ調査]

マガモ (2) → 1月8日 (日) 柳瀬川 [県内一斉ガンカモ調査]

ムクドリ (2) → 1月14日 (土) 宗岡せせらぎの小径で [青木明雄]

カイツブリ (1) → 2月3日 (金) 柳瀬川で [青木明雄]

コガモ → 2月3日 (金) 柳瀬川で [青木明雄]

《ほ乳類》

イタチ (1) → 2011年12月27日 (火) 柳瀬川土手で [青木明雄]



アオサギ (2011/12/7)  
[青木明雄]



チョウゲンボウ (1/8)  
[青木明雄]



イタチ (2011/12/27)  
[青木明雄]



ヒメアマツバメ (1/8)  
[青木明雄]



カイツブリ (2/3)  
[青木明雄]

環境 ひとくちメモ (23) 伊藤 智明

「和食の無形文化遺産」

「和食；日本人の伝統的な食文化」をユネスコ無形文化遺産保護条約の「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」への提案をする動きがあります。その資料によると、和食は「自然の尊重」を基本的な精神として、次の特徴を挙げています。

- ・米と味噌汁、魚、野菜・山菜などのおかずによりバランスよく構成され、動物性油脂を多用していないため、健康増進と長寿及び肥満防止に役立っている。
- ・食材の持ち味を引き出すため、加熱や加工を最小限に留め、出汁を使用している。
- ・風土に即した発酵（味噌・醤油・酒）の技術が発達している。
- ・四季の季節（旬）や多様な地域があるため、新鮮で山海の幸が豊富で、全国各地に様々な郷土料理が存在している。

- ・料理に葉や花などをあしらひ、季節にあった食器を使用したり、部屋をしつらえたりするなど、美しく表現する方法が発達している。

- ・正月や田植え、収穫祭のような年中行事と密接に関連し、家族や地域の人たちと一緒に料理や食事をすることで、絆を強めるだけでなく、精神やマナー、味覚（おふくろの味・郷土の味）などの継承伝達の役割をもっている。
- ・食材を無駄なく利用する「もったいない」精神は、資源の最大有効活用を促進することにより持続可能に貢献する。

志木にある地元の味も大切に残していきたいですね。



(出典) 農林水産省 報道発表資料 平成24年2月17日  
「和食；日本人の伝統的な食文化」の無形文化遺産への登録申請の決定について  
<http://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/kihyo02/120217.html>

## ☆会員状況

2011 年度更新済み会員 (2/22 現在)

個人正会員 49

団体正会員 2

賛助会員 3

○会員の長谷川久江さんより寄附金をいただきました。ありがとうございます。

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★今年度も継続更新をよろしく願います。



## ■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

## ■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

志木柳瀬川ロータリークラブ

## ■当会が参加している、または主な協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

柳瀬川流域ネットワーク

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

新河岸川広域景観づくり連絡会

埼玉県南西部地域 NPO 連絡会

(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

市内小中学校

志木市立教育サポートセンター

志木のまち案内人の会

グループぼんぼこ

情報満載！  
当会のホームページ

公式ホームページ

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

# 見にきませんか

春を待つ  
「こもれびのこみち」

斜面林へ



ここは、湧水が流れる志木市の貴重な自然です。自然は、見て、親しみながら育てましょう。毎月一回、ごみ拾いと、斜面林の手入れに分かれて作業しています。

いかがですか、見にきてみませんか。

## 第10回(2012年度) 定期総会のお知らせ

日時：5月20日(日)午後2～4時

会場：志木市いろは遊学館

議題：2011年度事業報告

2012年度事業計画

等

皆さまのご参加をお待ちしています。

温暖化に伴い昆虫の生息域も変化しています。最近では志木でも南方系の蝶や蛾が見られるようになりました。

#### ツマグロヒョウモン (タテハチョウ科)

黄色地にひょうもん柄の蝶で、雌は前翅の先が青黒い。10年位前から秋に見かけるようになり、最近では夏以降なら市内全域で毎日のように見かけます。幼虫は真っ黒な体に赤い棘が沢山あり、スミレ類を食べます。

#### ナガサキアゲハ (アゲハチョウ科)

黒を基調としたアゲハですが、クロアゲハ等の他の黒いアゲハと比べると後翅の尾がありません。2010年に初めて確認しました。幼虫はミカン類を食べます。

#### クロコノマチョウ (ジャノメチョウ科)

漢字で書くと黒木間蝶で、森を好む目立たない蝶です。昨年、ニュータウンの私の自宅の脇で見つけました。幼虫はススキやジュズダマ等を食べます。

#### ムラサキツバメ (シジミチョウ科)

2006年に西原斜面林のそばで見つけました。前翅の表側は鮮やかな紫色ですが、翅を閉じて止まっていると暗い褐色で目立ちません。近縁種のムラサキシジミはよく見かけます。幼虫はマテバシイを食べます。

#### クロメンガタスズメ (スズメガ科)

同類のメンガタスズメよりも温かい所を好みます。昨年、西原斜面林のヒヨドリジョウゴで幼虫を見つけたのですが、ナス科の植物を好みます。「メンガタ」とは、成虫の胸部の背に人面の様な模様があることによります。

#### ヒロヘリアオイラガ (イラガ科)

この連載の3回目でも取り上げましたが、10年くらい前から見られるようになり、今ではイラガの仲間では最も多くなりました。ユニークな形や色(黄緑主体)の幼虫はかなり雑食性で、サクラ等いろいろな樹木に集団発生し、棘に触ると飛び上るほど痛いので要注意です。成虫は黄緑色で、前翅の縁の茶色の帯が広いので「ヒロヘリ」とついています。



ツマグロヒョウモン (雌)



ツマグロヒョウモン (雄)



ツマグロヒョウモン幼虫



ナガサキアゲハ (雌)



ナガサキアゲハ幼虫



クロコノマチョウ



ムラサキツバメ



クロメンガタスズメ



ヒロヘリアオイラガ



## 地球と日本の自然 (4)

### 「海の幸」－日本近海の構造と、海と陸の相補関係などについて－

加藤 健二

江戸時代には東京湾で“しらうお”が捕れたものだと落語でよく紹介されます。あなご、鯛、海苔、はまぐり等々多くの海産物が江戸前の寿司屋では定番であったようです。

日本列島全体を見てみますと、北は北海道から南の沖縄まで広い範囲で南北の豊富な魚、大洋を回遊する大型魚、近海のえび、なまこ、かきや貝、もずく、こんぶなどの海藻などと枚挙にいとまがないほどです。世界でこれだけ豊富で余りあるほどの量の魚介類が見られる地域は数か所しかありません。また、食生活で見ますと、これらを干物や佃煮に加工し保存性と味覚を高めたり、くさや、なれ鮓など発酵食品の技術も合わせて、日本は食材の豊富化を実現しております。

これら豊穡な海の最大要因は「暖流」と「寒流」がぶつかる海域であること、そしてこれと日本列島周辺の地形と気候が複雑にからみあい、実に生物多様性を実現した海域となりました。第二は日本列島の陸が海に影響を与えている点です。サケ、アユのように川を遡上し世代を交代する直接的な関係はもちろんです。間接的に海を支えている事項について触れます。「森は海の恋人」とは東日本大震災で被災された畠山重篤さんの有名な言葉です。畠山さんは仲間の漁師さんと仙台の奥地に出向き、山に植林をすることによって、海が豊かになっていく活動を実践されています。日本全国には白神山地、日本アルプス、紀伊半島など随所で山の恵みは海に流れ、お互いの豊かさを実現し動植物の種類を増し、人間の生活に恩恵を与え



ています。

北からは、冬の名物である流氷は、オホーツクの彼方からミネラル分を運んできて、これにより植物プランクトンが発生し、動物プランクトンがこれを捕食し、ついで小魚の餌となり、中型魚、大型魚へと順次生態系を広げています。南では沖縄から九州、四国に分布するサンゴ礁は世界的にも重要な場所であり、私たちの近辺に守るべき貴重な自然が存在しています。

このように日本は世界でも有力な豊穡の海に恵まれていますので、ほとんど当たり前のごとく自然と食生活を享受しています。しかしこの日本の恵まれた環境は、健全な森林、健全な河川、そして干潟など健全な沿岸があって初めてそれら全体が成り立つ構造となっています。

また、豊かな自然と同時に、資源の保全についても考慮が必要に思います。それは、魚貝類の養殖や捕獲方法などの技術革新が工業技術ほどには進んでいるようには思えません。世界の大洋はまさしく人類の共有財産ですから、1国の利害を超えて環境保全と資源の有効利用に向けた努力が重要かと思えます。

#### 編集後記

◇ 2011年度も、新しいメンバーが加わり、新しい発想の新しい取り組みが生まれてきました。

◇ 地域の環境をまもるいろいろな事業で、参加者といっしょに有意義な時間を共有できるよう、来年度もしっかり楽しみたいと思います。 (梟)

#### エコシティ志木通信

第65号 2012年3月1日

〈発行〉

#### NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail [eco-shiki@ff.e-mansion.com](mailto:eco-shiki@ff.e-mansion.com)